

学習到達度OECD調査結果:日本の理数離れ、順位低下、意欲最低 11月30日

経済協力開発機構(OECD)が06年に実施した国際学力テスト「学習到達度調査」(PISA)の結果を発表した。調査は、3年ごとに実施される。前回より16多い57カ国・地域で約40万人の15歳男女が参加した06年の学力テストで、「数学的活用力」「読解力」「科学的活用力」の3分野を、アンケートでは、理科学習への関心・意欲などを調べた。

日本では無作為抽出された高校1年の約6000人が参加したが、数学的活用力が前回(03年)の6位から10位となり、科学的活用力も2位から6位に大幅に低下した。また、理科学習に関するアンケートで関心・意欲を示す指標などが最下位になった。読解力は前回と同じ点数だったが、順位を一つ下げ15位となり、改善されていない。